

AVAC ネットワークオーディオ試聴会報告(2016.4.23)

AVAC 梅田店で開催されたネットワークオーディオの試聴会に行ってきました。音楽データのデジタル出力のみに特化したネットワークオーディオトランスポート LUMIN U1 と、その音質で評価されている IODATA の fidata によって現在最も先鋭的と言ってもよいかもしれない音楽再生の楽しみ方とハイレゾによる高音質体験ができるとの振れ込みです。

<使用機材>

使用機材と接続は以下のとおりです。



U1



fidata

ネットワークトランスポート	LUMIN	U1
DA コンバーター	ESOTERIC	D-02X
スピーカー	B&W	803D3
オーディオ専用 NAS	IODATA	"fidata" SSD モデル
プリアンプ	ESOTERIC	C-02X
パワーアンプ	ESOTERIC	S-02

接続の流れ：

IODATA fidata SSD タイプ⇒(LAN 接続) ⇒LUMIN U1 ⇒(USB 接続) ⇒
ESOTERIC D02X

デモの予定：

LUMIN のブランド紹介/U1 の製品紹介
U1 による音楽再生や LUMIN App の紹介
IODATA fidata の紹介と解説・再生

当日のセッティングは以下の写真のとおりです。



<試聴の経過>

試聴室は AV 用の設備があり、説明は前半がブライトーン担当者によるルーミンの説明、後半が IO データ機器の担当者による FIDATA の説明がスクリーンに写しながら行われました。

ルーミンの説明はブライトーンの HP にある [LUMIN U1](#) の説明内容でしたが、大半は [LUMIN APP](#) の iPad と iPhone による操作の説明で、このアプリの操作性の良さが強調されていました。

最初に CD からリップリングした女性ボーカル、続いてヒラリー・ハーンのモーツァルトの V 協の 96KHz24bitFLAC 音源がかかりましたが、なんとなく平面的で、抜けきらない感じとオケのバランスの悪さが気になりました。

さらにカーペンターズ、マイルス・ディヴィス、ホーリー・コールと続きましたが、声の実在感はしっかりしているもののバックも含めたバランスに気になるところがありました。しかし、次のギターで始まるロック調のバンドでは馴染のない音楽ジャンルですが、こういうものでいいのかなという印象でした。

ここで担当が IO データ機器に代わり、最初に女性ボーカルで、サーバーが QNAP の場合と fidata の場合との比較があり、この違いは後者の方がディテールの再現がよく音楽のニュアンスの豊かさの点ではっきり判別できました。

IO データ機器の説明でも、単なるサーバーというよりは、HDD も SSD もグレードの高いものを選択、選別し、振動対策や電源の仕様など、オーディオ的な拘りのある設計であることが示されました。この後、懐かしの J ポップスやアニメのテーマ音楽などがかかりましたが、先程のロック調の音楽同様、アニメのテーマ音楽がしっくりしているように感じました。どうやら試聴室が AV 仕様で映画の効果音も含めた調整になっているようで、スクリーンの存在、壁の仕様、厚いスポンジのクッションなどが、ピュアオーディオに必要な 3 次元の位相確保や高域から低域までのバランスを崩しているようです。つまり、クッションの効いた椅子の座り心地と音楽を聴くポイントにギャップがあったということです。同様のことは、別の販売店の AV 試聴室でも経験しています。

ここで再び、ブライトーンの担当者に代わり、説明が済んだとのことでスクリーンを上げてカンターテ・ドミノ、ローリング・ストーンズ、ビートルズなどがかかりましたが、スクリーンがなくなっただけで、随分と音の明晰さが向上しました。

自宅の環境を考えるとネットワークトランスポート込みよりも、ミュージックサーバーの USB 接続が好ましいのですが、無線ルーターとの距離があってオーディオシステムの設置場所まで、有線 LAN が接続できないので、この解決法を IO データ機器の担当者に質したところ、簡易的なルーターを **fidata** に接続して使用方法と中継無線ルーターを使用する方法があることが分かりました。機会を見てこの方法の確認をしてみたいと思っております。

<まとめ>

LUMIN U1 と**"fidata"** SSD モデルの仕様と機能および操作性についてはよく理解できましたが、試聴室の環境やクラシック音源が少なかったことで音質については今一つ実力が掴めないまま終わってしまいました。環境を替えてじっくり聴いてみたいと思います。